

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	17	大学等名	阿南工業高等専門学校
テーマ	テーマⅡ 学修成果の可視化		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、学修時間を確保するラーニング・ポートフォリオの充実、コンピテンシーの評価、各種学生調査等を実施し、さらには学修管理システム（LMS）の活用、それらを推進するための施設の整備等もなされている。また、本事業を推進する上で得られた知見による発展的な取組を実施するなど、計画以上の成果も見られ、入口（入学）から出口（卒業）まで質保証の伴った大学教育に関する総合的な取組が推進されていることは高く評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、各年度の詳細な計画に基づき、新入生アンケート、卒業時・修了時アンケート、学生生活実態調査、シラバス記載到達目標達成度自己評価、目標設定とその達成度調査、学外の学生調査、企業アンケート及び授業評価アンケートが毎年度実施され、それらの結果に基づいて更なる取組の改善が行われている。目標の達成状況に関しては、とりわけ必須指標である「学生の授業外学修時間」における事業開始年度からの伸びが著しく、本事業の取組による成果が表れていると言え、評価できる。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、校長の下に「教育開発推進室」が置かれ事業の推進を図っている。また、（１）教員レベル（２）委員会レベル（３）内部質保証レベル（４）外部評価レベルの４層での評価体制が整備され、PDCAサイクルも上記４層で機能していることから、教育改善のための体制は万全である。さらに、補助期間中に常勤教員をIR担当教員へ育成することにより、補助期間終了後は専門人材なしで事業を実施できる体制を整えている。加えて、FD・SDに関しては外部組織との連携を図っており、補助期間終了後も継続的な事業の実施を見込めると評価できる。

事業成果の普及については、フォーラム、成果報告会等の機会に、独自の評価ルーブリックを開発し、学生のコンピテンシーを独自に可視化して学生へフィードバックしてきたことを中心に本事業における取組を発表していることに加え、国内外の学会でもその成果を報告しており、取組の波及に努めていると評価できる。